

岩手ホスピスの会通信



岩手ホスピスの会（代表：川守田裕司 事務局長：吉島美樹子）

会 員 数／333名（2017.9.18 現在）

編 集 発 行／「岩手ホスピスの会」事務局 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町 13-31 川守田方

TEL：090-2604-7918 FAX：019-653-6447

郵便振替口座／02250-1-60580 E-mail／hospice@eins.rnac.ne.jp

Homepage（岩手ホスピスの会通信）／<http://hospice.sakura.ne.jp/>

No. **58**
2017年10月

ホスピスセミナー「セデーション(鎮静)について」開催

岩手ホスピスの会主催のホスピスセミナーが8月19日盛岡市で開催され、岩手医科大学緩和医療学科教授・木村祐輔先生が、「セデーション(鎮静)について～終末期の苦痛緩和のために～」と題して講演しました。



65名の参加者で行われたセデーションセミナー

セデーションはその導入、適応に関して医師や病院によって意見が異なり、まだまだ一般的にはその実情が知られておりません。今回は、セデーションとは、セデーションのこれまでの歴史・推移、セデーションによる患者さんへのメリット、セデーションを取り巻く課題—等様々な角度からお話をさせていただきました。

(12ページ新聞記事参照)

- ①セデーション(鎮静)とは、患者の苦痛緩和を目的として患者の意識を低下させる薬剤を投与すること。(ミタゾラム、フェノバルビタール等)
- ②1990～2003年にかけて行われた、WHO方式がん疼痛治療法提唱者による報告、セントクリストファーズホスピス(世界で初めて開設されたホスピス)の報告、淀川キリスト教病院の報告によると、ホスピスケアを受けていた患者さんの半数以上はセデーション(鎮静)が必要との結果だった。(医療用麻薬を使用するWHO方式がん疼痛治療のみでは苦痛の緩和は十分ではない)
- ③セデーション(鎮静)については各病院、各医療者によって意見が異なり、行っていない病院はないと思われるが、その適応判断をどうしているかについて医療者の考えが異なっている可能性が高く、その結果施行率に差があると思われる。
- ④終末期にセデーション(鎮静)を希望する方は、症状の軽いうち、もしくは病気になる前に家族やキーパーソン(意志決定や問題解決の要となる人物)と話し合い意見を伝えておくことが、ご本人が終末期を迎え、かつ自身の意見を伝えられなくなった際にご家族の考えの基礎になりうるが、その時に話し合ったことが絶対ではなく、月日の経過によって考えが変わりうることも保障しなければならない。
- ⑤苦痛が辛くなりセデーション(鎮静)を考慮する時はそれぞれの病院の緩和ケアチーム等に相談すること。

盛岡二高 タオル帽子作り講習会開催

盛岡市上ノ橋町の岩手県立盛岡第二高等学校1年C組の生徒さん40名を対象に岩手ホスピスの会のタオル帽子作製講習会が9月5日同校被服室で開催され、当会のタオル帽子ボランティア6名が同校の生徒さんたちに抗がん剤の副作用で脱毛に悩む人たちをカバーするタオル帽子の作製を指導しました。

これまで当会では月一回のタオル帽子サロンや企業、病院など様々な場所で作製講習会を開いてきましたが、高校生を対象に学校で開催したのは初めてです。

この講習会は同校家庭クラブ委員長で3年の岩間華さんの企画で、家庭科の授業の一環として開催されました。同校家庭クラブは入学した1年生は全員部員となり、2年では各クラスから1名が参加して委員会を組織、3年生からは会長1名副会長1名が選出されるということです。



今回も同クラブよりタオル帽子活動に役立てて、とタオルを寄贈いただきました。

盛岡二高は一昨年からは帽子の材料となるフェイスタオルを校内で集めて岩手ホスピスの会に提供する活動を続けています。

岩間さんがこの講習会を企画するきっかけとなったのは、同校家庭クラブの活動を通してタオル帽子活動を知ったことから。

「私も実際にタオル帽子を作ってみて、作った帽子が誰かの役に立つことを知り、この活動の素晴らしさを知りました。ぜひみんなもタオル帽子を作って患者さんに届けて、患者さんに喜んでもらえる活動が自分にも積極的にできるということを知るきっかけになって欲しいと思います。今日のことはきっとみんなにとって貴重な経験になると思います。」と話していました。

生徒たちは「いろんな縫い方をしなければならなかったのが大変でした」。「きれいにできた訳じゃないんですけど、自分が頑張った帽子をかぶってくれるのは嬉しいです」「すごい柔らかいし付け心地がすごい良いので、喜んでいただくことができれば嬉しいです」などと話していました。



この日、生徒たちが作成したタオル帽子はボランティアさんの手直しのあと県内の病院を通じてがん患者さんに届けられます。



家庭クラブの中島恵先生(左)と委員長の岩間華さん



岩手医大緩和ケア医師研修に講師として参加

平成 29 年度第 1 回岩手医科大学附属病院緩和ケア研修会が 5 月 20、21 日岩手医大循環器医療センターで開催され、集まった 70 人の医師の方々が様々な角度から二日間に渡って緩和ケアに関する基本的な研修を受けました。研修会には当会から 2 名患者の立場から講師として招かれ、「岩手県における患者さんの声」と題して、3 人の患者さんの事例を紹介しながら、患者の立場から緩和ケアの充実、緩和ケア医療のスキルアップの必要性、医療用麻薬をもっとうまく使用して欲しい等を、集まった医師の方々に訴えました。



患者さんの声を医師の方々に届けました。

岩手県内各ホスピス現況 (2017 年 9 月現在) 盛岡友愛病院緩和ケア病棟

(8 ページにもご案内を掲載)

- 住所／岩手県盛岡市永井 12-10
- 電話／019-638-2222
- 病床数／18 床
- ベッド／個室 10 床のうち 9 床が有料 4 床室無料
- 有料室料金／1 日 5,400 円
- 看護師数／16 名 + 補助 4 名
- ホスピス医／藤井祐次先生
- 看護師長／曲木順子さん
- 入院審査を受けるには／医療相談室まで。
TEL：019-638-2222 (代表)
月～金曜：9：00～17：00
土曜：9：00～12：30
- 審査日／週 2 回を予定
- ホスピス入院平均待機者数／4～5 名
- ホスピス入院平均待機期間／個室は 1～2 週間程度
大部屋希望の場合は 1～数週間程度
(大部屋は希望が多いため、患者さんの意向を確認後、一般病棟で待機する場合があります)
- 利用者内訳／盛岡市周辺の方がほとんど
- 緩和ケア外来／開設未定



同院緩和ケア病棟内で開催した
岩手ホスピスの会「うたごえカフェ」(2016.11)

- ホスピスボランティアの人数と活動／年 1 回程度イベント時活動
- 遺族会の名称と連絡先／設置未定
- 入院料／定額制。入院期間により 3 段階。患者さんの自己負担額は加入している保険等により異なる。各種医療保険適用、医療費の他に食事代別途徴収。
- ペットの同伴／面会のみ可能。条件あり。要申請。
- 麻酔医との連携／なし

「岩手ホスピスの会」がん相談ホットライン



開設日	毎月第 2 土曜日 午後 1 時 30 分～4 時 (月により変更あり) 相談無料
場所	盛岡市若園町総合福祉センター内 タオル帽子サロン会場 (月により変更あり)
内容	電話相談：がん全般についての相談に対応致します。 直接面談：上記会場に来院して頂き対応 ※事前にお電話いただければ、相談内容に合ったスタッフが対応致します。
問合せ	岩手ホスピスの会 090-2604-7918

ロックコープスタオル帽子作り講習会開催

6月17日(土)、7月1日(土) 同16日(日)の三日間、東京都渋谷区千駄ヶ谷の株式会社サニーサイドアップにおいて、ロックコープスタオル帽子講習会が開催され、のべ120人の参加者がそれぞれ4時間にわたってがん患者さんの脱毛をサポートするタオル帽子作りに取り組みました。

当会からは作成講師として3名のボランティアさんが参加し、丁寧な指導により参加した皆さんが素敵な帽子を作りあげ、出来上がった帽子は全て当会に寄付されました。

ロックコープとは、2003年に米国で設立されたソーシャル・プロダクション・カンパニーで、音楽の力を通じて人々にボランティア活動を呼びかけ、人々が地域・コミュニティとさらに関わり合いを持つよう活動を行っています。今までに14万人以上が56万時間以上のボランティアに参加。ライブコンサートイベントは世界8カ国(アメリカ、イギリス、フランス、イスラエル、ベネズエラ、メキシコ、南アフリカ、他)、40回以上開催されています。2014年より日本においても開催され今年で4回目となります。この日参加した方々は4時間ボランティアを頑張ったお祝いとして9月2日幕張メッセで開催されたセレブレーションライブ(出演:フィフス・ハーモニー他)のチケットを受け取りました。



3日間でのべ120人がタオル帽子を作成



被災地支援草刈ボランティアレポート

6月24日(土)、東日本大震災被災地支援活動として、岩手県自治体現業組合と合同で、草刈の希望が出ていた陸前高田市内の上壺仮設(13世帯)、下壺仮設(20世帯)、細根沢仮設(29世帯)、相川仮設(28世帯) — 各仮設住宅敷地内周辺において、生い茂った雑草の草刈りボランティアを行いました。

昨年も開催し、仮設住宅の方から大変助かったとお礼の言葉を頂きましたが、今年も皆で取り組みました。



仮設住宅周辺の草刈り

当会では盛岡から会員5名の他、胆沢地区から当会会員1名が参加して上壺仮設住宅周辺の草刈りに汗を流しました。

仮設住宅の区長さん方からは「自宅を再建したり、災害公営住宅への転居などで仮設住宅の入居者は減っているが、残っている住民の高齢化が顕著で、草刈などで人手が足りず大変助かった」との声が聞かれました。



草刈りボランティアメンバー

全国のがん診療連携拠点病院へタオル帽子発送

2017年6月。今年も全国のがん診療連携拠点病院407箇所のうち、依頼のあった33箇所の病院にタオル帽子総数3,200個を発送しました。昨年同期より送付数1,330個増、送付病院11件増となりました。

全国の患者さんがお送りしたタオル帽子で少しでも笑顔になっていただけることを、ボランティア一同願っております。



タオル帽子発送に取り組むボランティアさんたち

送付先病院一覧

- 北海道 北海道がんセンター 青森県 青森県立中央病院、三沢市立三沢病院
- 秋田県 秋田厚生医療センター、秋田赤十字病院
- 岩手県 県立中央病院、県立中部病院、岩手医科大学附属病院、県立胆沢病院 山形県 山形県立中央病院
- 群馬県 公立藤岡総合病院 東京都 武蔵野赤十字病院 神奈川県 相模原協同病院
- 愛知県 中京病院、愛知県がんセンター中央病院 岐阜県 岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター
- 福井県 福井赤十字病院 石川県 金沢医科大学病院 滋賀県 市立長浜病院 京都府 京都大学医学部附属病院
- 兵庫県 兵庫医科大学病院 愛媛県 済生会今治病院、愛媛県立中央病院 佐賀県 唐津赤十字病院
- 大分県 大分大学医学部附属病院、別府医療センター
- 熊本県 人吉医療センター、熊本大学医学部附属病院、熊本赤十字病院 鹿児島県 県民健康プラザ鹿屋医療センター
- 沖縄県 琉球大学医学部附属病院、那覇市立病院

がん対策推進協議会参加レポート

第20回・21回岩手県がん対策推進協議会は6月22日と9月14日、盛岡市内で開催され、新年度の取組である次期第3次岩手県がん対策推進計画等について委員間で話し合いが行われました。



第20回岩手県がん対策推進協議会（6月22日）

次期第3次岩手県がん対策推進計画について当会は、役員全員で話し合ったことを集約して、「①苦痛のスクリーニングを県内拠点病院はもちろんすべての医療機関で周知し実施して欲しい②緩和ケアについての情報がまだ乏しい。様々な媒体を通して県による緩和ケアに関する情報発信の強化が必要③超高齢社会を迎え、高齢者施設での最期の看取りが急増しており、スタッフに見取りのスキルアップのため緩和ケア研修を行って欲しい④東日本大震災の被災地域を含む県北部沿岸部の緩和ケア体制の推進を」と意見を述べました。（12ページ新聞記事参照）

次期がん対策推進計画策定に関わる今後のスケジュール

- ◆第22回岩手県がん対策推進協議会（2017年11月16日）、同第23回協議会（2018年1月又は2月）⇒次期がん対策推進計画最終案を2017年度中に県議会へ上程

がん患者さんのための栄養講座開催

7月22日(土)盛岡市総合福祉センターで「がん患者さんのための栄養講座」を開催しました。県立胆沢病院(奥州市)がん病態栄養専門管理栄養士の蛇口真理子さんが、「がん患者さんの自宅で手軽にできる食事の工夫」と題して講演し、40名の参加者と一緒にがん患者さんの食事について考えました。

今回は、がんの術後や治療中などで食欲がない方やご家族の方などのため、患者さんにおいしく食べていただけるような食事の工夫を様々な角度から紹介し、参加した方々からも活発な質問がありました。

蛇口さんは「患者さんや家族が食事をストレスに思わないこと。あまり『ちゃんと食べなきゃ』と考えず気持ちを楽しんでほしい」と呼びかけ、「どうしても食べられない、栄養が気になる場合は、かかりつけの病院の医師や緩和ケアチームに相談してみしてほしい」とアドバイスしました。(11ページ新聞記事参照)



蛇口真理子さん

医療者と患者会による緩和ケアに関わる合同検討会議

医療者が緩和ケアを学ぶ「緩和ケア研修会」について、一昨年4月から国の指針の一部改定があり、「患者会をはじめ、患者や家族の意向を十分に反映するため合同検討会儀等を開催し、患者の声を積極的に取り入れること」を受けて昨年度から年1回開催されている、「医療者と患者会による緩和ケアに関わる合同検討会議」。

今年は県内九つの患者会から20人、岩手医科大学他県内県立病院の緩和ケアに関わる医療者21人が一堂に会し、7月15日岩手県庁で開催されました。

まず各病院より緩和ケア活動についての報告があり、その後患者会との意見交換が行われました。

またこのあと第2部として、がん患者家族会連絡会が開催され、次期岩手県がん対策推進計画の策定について県と患者会の意見交換が行われました。

患者会からは①医療の均てん化により地域格差の解消を②全ての病院での苦痛のスクリーニングの実施③増加している高齢者施設での看取りに対応するため高齢者施設スタッフへの緩和ケア研修の実施一等の要望、意見が出されました。

これに対し担当医療者と県側からは、①については「岩手の医師看護師不足は深刻であらゆる手を尽くして奔走している状態を理解して欲しい②について「スクリーニングは各病院で始まったばかりで手探りで模索している状態」③については「昨年より国で研修会が始まっており、前向きに検討したい」との回答。

また、当会より高橋課長にホスピスのドキュメント映画を見た感想を訊ねたところ、「県民の方々がホスピスについて強い関心を持っていることが分かりました」との回答でした。

会議終了後当会参加者からは「せっかく県内の緩和ケアに関わる医療者の方々が一堂に会する機会なので、次回からはぜひ緩和ケアの医療者と患者会間の情報交換や対話、互いの連携についての検討など話し合いをもっと密に持ちたい」、との意見が出され、次回の患者会情報交換会で県にお願いすることを申し合わせました。



年に1度、患者家族と緩和ケアに関わる医療者が一堂に集まった。

シリーズ

岩手の在宅医療を支える人々①

在宅医療を支える訪問看護をめざして

訪問看護ステーションあゆみ所長 高橋 昭子



訪問看護ステーションあゆみスタッフの皆さん

わたしは先輩からやりがいのある仕事として訪問看護を勧められ、今日まで17年間続けています。訪問看護は、自宅で療養する利用者（患者）さんに看護師や理学療法士などが主治医から指示を受けて訪問をし、看護やリハビリを提供します。24時間・緊急時の訪問看護体制で呼吸器の管理・床ずれ処置・点滴・リハビリ・がん患者さんの疼痛コントロール・看取りなどの看護やリハビリを行います。

当看護ステーションは岩手県の内陸、北上市にあり、看護師は9名、リハビリ担当2名、事務2名です。利用者さんは110名位です。北上市ではご遺族の寄付金をもとにがん対策基金活用事業を行っています。県立中部病院には緩和ケア病棟があり、退院後、希望時は緩和ケア病棟に戻れるシステムも出来ています。

大腸がん終末期のTさんは病状の告知説明を受け、在宅での療養を希望しました。息子さんと、ハワイ在住の娘さんが帰国し母親の介護をしているうちに、父親も体調不良を訴え、臍臓が

んの終末期であることがわかりました。皆さんが住み慣れた自宅でのターミナルケアを選びました。Tさんは必要時、点滴を受け、医療用麻薬の持続注射で疼痛コントロールをしました。主治医は週1回訪問、訪問看護は毎日の訪問、体調見ながら訪問入浴を利用、ケアマネージャーは毎日のように訪問をし、連携して支援しました。Tさんはご自分が大変な中、冷静に先ず夫のみおくりをなさいました。そして最後までお話ができ、娘さん達に今後のことを託し、穏やかに眠るように、その一週間後に永眠されました。同時期に自宅でご両親の看取りをなさった、ご兄弟は大変な心身の疲労があったと思います。ご自分達でお世話をしたいという気持ちが体力以上の力を発揮されたと思われました。

点滴のスタンドは家にあるS字フックやハンガーを代用、空きペットボトルの蓋に穴を開けてシャンプーや下の洗浄に利用、また温かい湯を入れて湯たんぽに、凍らせて体を冷やします。参考にしてください。



訪問看護利用者さんとその息子さんと共に

訪問看護ステーションあゆみ：〒024-0084 岩手県北上市さくら通り4丁目1-35
電話：0197-62-0031 FAX：0197-62-0032

岩手県内各ホスピス現況 (2017年9月現在)

(岩手ホスピスの会調べ 詳細は各病院に直接お問合せ下さい) (3ページにもご案内を掲載)

	孝仁病院 緩和ケア病棟	盛岡赤十字病院 緩和ケア病棟	岩手県立磐井病院 緩和ケア病棟	岩手県立中部病院 緩和ケア病棟	美山病院 緩和ケア病棟
住 所	盛岡市中太田泉田 28	盛岡市三本柳 6 地割 1 番地 1	一関市狐禅寺字大平 17 番地	北上市村崎野 17 地割 10 番地	奥州市水沢区羽田町 字水無沢 495-2
電 話	019-656-2888 医療福祉相談室	019-637-3111 (代表) 緩和ケア相談室 内線 338	0191-23-3452	0197-71-1511	0197-24-2141
病 床 数	10 床	22 床 (全室個室)	24 床 (個室 20、2 床室 2)	24 床 (個室 18、2 床室 3)	20 床 (全室個室)
ベ ッ ト	無料個室 8 床 有料個室 2 床	無料 12 床 有料 10 床	無料 17 床 有料 7 床	無料 14 床 有料 10 床	無料 20 床
有 料 室 料 金	1 日 3,240 円	1 日 5,400 円・ 10,800 円	1 日 3,130 ~ 6,370 円	1 日 3,240 ~ 13,180 円	無料
看 護 師 数	16 名	21 名 + 看護補助者 2 名	17 名	17 名 + 補助 3 名	17 名 + ケースワーカー 1 名 + 看護補助者 5 名
ホ ス ピ ス 医	米山幸宏先生	旭博史先生、 畠山元先生	平野拓司先生	関根義人先生、 星野彰先生、 平賀一陽先生	菊池俊弘先生、 及川司先生
看 護 師 長	白澤美代子さん	高橋節子さん	和泉美奈子さん	菊池恵美子さん	小林洋子さん
入 院 審 査 を 受 け る に は	医療福祉相談室に ご相談ください。 月~土 8:30 ~ 17:15	緩和ケア相談室へお 問い合わせください。 月~金曜 9:00 ~ 16:00	0191-23-3452 (入院相談等) がん相談支援センター 相談時間: 平日 9:00 ~ 16:00	0197-71-1511 (入院相談他) がん相談支援室 相談時間: 平日 9:00 ~ 16:00	入院相談 (担当:ケ ースワーカー) 後面談 入院検討会 (医師、 薬剤師、栄養士、看護師、 理学療法士で構成)
審 査 日	随時	随時	随時	随時	随時 (その後ベッドが 空くまで待機)
ホスピス入院 平均待機者人数	0 ~ 2 名	0	0	3 ~ 4 名	0
ホスピス入院 平均待機期間	状況により 数日~2 週間 重症者優先	外来受診後、 平均 6 日	1 ~ 2 日	待機期間は同院一般 病棟や近隣の病院、 連携のとれている訪 問診療で対応	0
利 用 者 内 訳	盛岡市周辺がほとんど (8 割以上)	盛岡市周辺の方がほ とんど	一関市周辺や宮城県 北の方がほとんど	花巻北上周辺の方が 8 割以上。その他は 奥州、盛岡南部等	奥州市周辺の方がほ とんど
緩和ケア外来	診察日: 月~水・金・土 8:30 ~ 17:15 木 8:30 ~ 12:30 担当医:白木豊先生・ 米山幸宏先生	診察日: 月・火・水、要予約 担当医:旭博史先生・ 畠山元先生	診察日: 月~金、要予約 担当医:平野拓司先生	診察日: 月~金の午前、 要予約 担当医:星野彰先生	診察日: 水、要予約 担当医:菊池俊弘先生
ホスピスボラ ンティアの 人 数 と 活 動	登録者 24 名 実働 7 ~ 8 名 ホスピスボランティア 募集中 019-656-2888 4 階病棟白澤まで 都合のよい時間でよ いのでぜひ!	病院ボランティア登録 者 25 名。うち 23 名 がホスピスで活動中。	ボランティアコーデ ィネーター 2 名、ボラ ンティア 12 名 活動:ティータイム、 季節の行事、がん患 者サロン (こころば)	H23 年 6 月~ボラン ティア活動開始 40 名登録 定期的に研修を行っ ている	現在登録者 5 名で活 動中。ホスピスボラ ンティアを随時募集中
遺 族 会 の 名 称 と 連 絡 先	名称:ひだまりの会 年 2 回開催 連絡先: 緩和ケア病棟 白澤	ハナミズキの会 緩和ケア病棟 年 1 回開催	偲ぶ会 (連絡先:緩和 ケア病棟) 当院緩和ケ ア病棟でお亡くなり になった方のご遺族の方 のみ 年 1 回開催	偲ぶ会 緩和ケア病棟 (0197-71-1511) 当院緩和ケア病棟で お亡くなりになった方 のご遺族の方のみ これまでに 6 回開催	しちせき 七夕の会 緩和ケア病棟 (0197-24-2141) 当院緩和ケア病棟で お亡くなりになった方 のご遺族の方のみ これまでに 4 回開催
入 院 料	定額制 (3 段階...診 療報酬上の緩和ケア 病棟入院料に準じま す)、保険適用	定額制です。入院日 期間によって 3 段階 での算定です	定額制 (入院期間によ り 3 段階) ただし、定 額に含まれない加算や 有料個室の料金等は別 途追加になります		定額制 (マルメ)。 3 段階になります
ペットの同伴	要相談・宿泊は不可	面会は可能。宿泊や 飼育は不可	一時的な面会のみ可 能	面会可能。宿泊不可	面会可能。宿泊不可
麻 酔 医 と の 携 連	なし	硬膜外ブロックなどを行う 場合などに連携あり	なし	院内ペインクリニック と連携	麻酔医が非常勤なの で頻度は少ない

岩手ホスピスの会とタオル帽子ボランティアへの メッセージ (2017年4月～9月)

当会のタオル帽子を受け取った全国の皆さんから当会に寄せられたメッセージの一部をご紹介します。2008年6月からスタートしたタオル帽子発送はこれまで82,725個に上っています。帽子を作るボランティアの皆さんに深く感謝申し上げます。

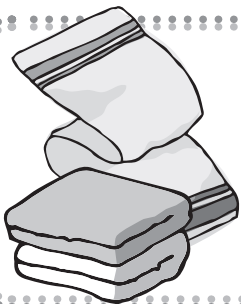


* NTT 関東病院で乳がん手術後に化学療法室での説明を受ける日、貴会の帽子の話を聞いて見せていただき、とても使いやすく毎日の生活に役立つものだと直感しました。30年前の妹の化学療法の際には、母はとても苦労して帽子を探したのですが、こんな良い帽子はありませんでした。このキャップを考案した人は本当に素晴らしい！私は治療に先立ってこのキャップに早くに出会えて幸運でした。リハビリのために趣味だった水泳も脱毛中はできないかと思いましたが、水泳中はスイミングキャップ、シャワー室～更衣室でもこのキャップのおかげで、機能的にも心理的にも楽でした。岩手県でこんなに力強い会があることは嬉しいです。皆様本当にありがとうございました。やさしい心地良いタオルの帽子に支えられて化学療法を乗り切りました。(東京都)



タオル帽子を縫い上げてにっこり。患者さんに届けタオル帽子！

* 岩手ホスピスの会の皆様、このたびはタオル帽子のプレゼントをいただき、多くの患者様に届けることができ、感謝しております。気持ちの込められている帽子を手に取り表情が和らぐ患者様の姿を見て、私たちスタッフも励みに働かせていただいております。多くの患者様から、助かっている旨のお言葉や感謝の意が聞こえてきております。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。(岩手県立胆沢病院地域医療福祉連携室)



フェイスタオルご寄付のお願い

皆様にお願ひ申し上げます。ボランティアさんがタオル帽子を作るためのフェイスタオルが不足しております。できましたらご寄付のご協力をお願いいたします。どのようなものでも構いません。ご家庭で眠っているタオルがありましたらぜひお送りください。

〈送付先〉 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町13-31 岩手ホスピスの会宛

タオル帽子を作りたい方へ

※タオル帽子を作りたい方へ型紙をお譲りしています。申し込み方法：はがきかメールで。

※メールアドレス：hospice@eins.rnac.ne.jp

はがき：〒031-0823 青森県八戸市湊高台6-4-22 吉島方「岩手ホスピスの会」

これからのタオル帽子講習会・サロン日程

○11月18日：タオル帽子講習会・サロン ○12月9日：タオル帽子講習会・サロン

●場所：盛岡市総合福祉センター

●開催時間：午後1時30分から ●問い合わせ先：080-1658-1762

※型紙のコピーはご遠慮願ひます。型紙の必要な方は当会へお問い合わせください。

***** 岩手ホスピスの会活動日誌 *****

2017年5月～9月

- 5月 13日 第4回役員会～タオル帽子サロン・講習会開催
…………… (盛岡市総合福祉センター、28名)
- 5月 14日 タオル帽子倉庫作業 (盛岡市タオル帽子倉庫、6名)
- 5月 20日 平成29年度第1回岩手医科大学附属病院
緩和ケア研修会において「岩手の患者さんの声」と
題して講演 …… (岩手医大循環器センター、2名)
- 5月 26日 岩手医大患者家族サロン「タオル帽子を作る会」
参加 …………… (岩手医大、2名)
- 5月 27日 タオル帽子チャリティーバザー開催 …………… (滝沢市土日ジャンボ市、6名)
- 5月 28日 タオル帽子倉庫作業 …………… (盛岡市タオル帽子倉庫、3名)
- 6月 10日 第5回役員会～タオル帽子サロン・講習会開催 … (盛岡市総合福祉センター、29名)
- 6月 17日 ロックコープスタオル帽子講習会参加…………… (東京都内、4名)
- 6月 22日 第20回岩手県がん対策推進協議会参加 …………… (盛岡市勤労福祉会館、3名)
- 6月 24日 被災地支援仮設住宅草刈ボランティア活動参加 …………… (陸前高田市竹駒町、6名)
- 6月 25日 タオル帽子倉庫作業 …………… (盛岡市タオル帽子倉庫、5名)
- 7月 1日 ロックコープスタオル帽子講習会参加…………… (東京都内、4名)
- 7月 8日 第6回役員会～タオル帽子サロン・講習会開催 … (盛岡市総合福祉センター、28名)
- 7月 15日 医療者と患者会による緩和ケアに関わる検討会議参加 … (岩手県庁特別会議室、5名)
- 7月 16日 ロックコープスタオル帽子講習会参加…………… (東京都内、4名)
- 7月 22日 がん患者さんのための栄養講座開催 …………… (盛岡市福祉センター、40名)
- 7月 28日 岩手医大患者家族サロン「タオル帽子を作る会」参加…………… (岩手医大、2名)
- 8月 12日 タオル帽子サロン・講習会開催…………… (盛岡市総合福祉センター、19名)
- 8月 19日 第7回役員会～ホスピスセミナー「セデーション(鎮静)について」開催
…………… (盛岡市総合福祉センター、65名)
- 8月 26・27日 タオル帽子チャリティーバザー開催 …………… (滝沢市土日ジャンボ市、12名)
- 9月 5日 岩手県立盛岡第二高等学校1年C組の生徒さんにタオル帽子作成講習会開催
…………… (盛岡二高被服室、46名)
- 9月 9日 第8回役員会～タオル帽子サロン・講習会開催 … (盛岡市総合福祉センター、30名)
- 9月 14日 第21回岩手県がん対策推進協議会参加 …………… (県民会館、3名)
- 9月 22日 岩手医大患者家族サロン「タオル帽子を作る会」参加…………… (岩手医大、2名)
- 9月 29日 がん患者家族会情報交換会参加 …………… (エスポワールいわて、5名)



タオル帽子チャリティーバザー(8月27日)

新年度会費の納入をお願いいたします。

岩手ホスピスの会は皆さんの会費により運営されております。2017年度会費(2017年1月～2017年12月分)を郵便局にて、振込用紙に住所、氏名を明記の上振込をお願いいたします。

なお、行き違いですすでにお支払いいただいております折は、なにとぞご容赦ください。

また、ご住所の変更があった方はお手数ですがご連絡をお願いします。

会費：1,000円(複数口可) 郵便振替：02250-1-60580 岩手ホスピスの会

盛岡タイムス
2017年9月7日掲載

がんと向き合う思い、知る

二高 タオル帽子を作製

ホスピスの会



岩手ホスピスの会のメンバーに教わりながら、タオル帽子の製作に励む盛岡二高の1年生

盛岡市の盛岡二高（川守）手ホスピスの会（川守）ル帽子製作講習会が開
（巖谷拓也校長、生徒 田裕司代表）による、
598人）で5日、岩 がん患者のためのタオ
家材料の授業時間を利用
られた意味を学びなが
ら、一針、一針、丁寧
に縫い上げた。

タオル帽子は、抗がん剤治療などのため、脱毛する患者のために考案された帽子。フェイスタオル1枚で製作でき、患者を気遣って作りの思いも伝わると好評だ。岩手ホスピスの会は2009年6月から、タオルの帽子の寄付や普及活動を始め、その輪は全国に広がった。

盛岡二高は、家庭クラブ委員会が中心になって2年ほど前から、材料のタオルの寄付などに取り組んでいる。さらに深く活動を知る機会にしようと、同クラブの岩間委員長（3年）が働き掛け、校内でのタオル帽子製作講習会が初めて実現

した。

岩手ホスピスの会から川守田代表をはじめ、9人が来校し作り方を指導。佐々木選手（1年）は「タオル帽子の活動を知る貴重な機会になった」、田中杏依さん（同）は「私も想いが一針一針縫った

タオル帽子で患者さんが元気になってくれたらうれしい」と話し、懸命に取り組んでいった。

岩間委員長は「実際に自分で作ってみると、手元にタオルが届き、患者さんの姿も想像しやすくなると

院などに搬送する。岩手ホスピスの会の古島美樹子事務局長は「タオル1枚から始められるボランティアを通して社会とつながり、がんという病や、患者が多くの人の支えで療養していることも知って

思っ。誰かのために積極的に行動するきっかけになってほしい。これからは、もっと力をつけてほしい」と意欲を燃やしていた。

生徒たちが縫い上げた帽子は、クリスマス時期、他の帽子と一緒に全国のがん拠点病もらえた」と願った。

がん患者の食事 工夫紹介 会講



自宅でできる食事の工夫を紹介した「がん患者さんのための栄養講座」

岩手ホスピスの会（川守）市若葉町の市総合福祉センター
田裕司代表）は22日、盛岡ターで「がん患者さんのた

めめ栄養講座」を開いた。同会幹事で県立順沢病院がん病棟栄養専門管理栄養士の蛇口真理さんが「がん患者さん・ご家族が自宅でできる食事の工夫」と題して講演。約40人が聴講した。

蛇口さんは、がん患者が食欲不振になる原因、化学療法の副作用がある時や体力が低下した時の対応などを詳しく解説。食欲のない時には少量に分けて食事の回数を増やすことや、トーストにスライスチーズを加えるなど栄養をアップする工夫を伝えた。

その上で「栄養バランスは重視しすぎず、食べる楽しみを優先してほしい。食欲がない時には無理をせず、アイス1個でもいい」

と呼び掛けた。

家族の食事づくりを担当する患者が味覚障害がある時には▽マーボー豆腐など市販の調味液を利用する▽サラダやおひたし、冷ややっこなど、家族がそれぞれ付けられるようなメニューにする一ことを提案。

「市販のものを上手に利用することで、調理や味付けに自信がない時にもストレスを減らせる」と励言した。

緩和ケア充実求める

県がん対策協、3次計画を議論

発症実態調査の要望も

県がん対策推進協議会がこのほど盛岡市内であった。今年度中に策定する第3次がん対策推進計画を議論。患者の苦痛を和らげる緩和ケアの取り組み強化や、県内のがん発症の実態調査を求める意見が出た。

県の報告によると、15年度のがんの死亡率は人口10万人あたり81人（75歳未満で年齢調整）。前年度の79・5人を上回った。全国平均は78人で、前年度より1人分減った。

緩和ケアは、闘病中の患者の身体的、精神的な苦痛を和らげたり予防したりするのが目的。現行の第2次

計画（13年度～17年度）でも普及・向上が目標の一つになっている。

がん患者や家族らでつくる「岩手ホスピスの会」の川守田裕司代表は「終末期の患者に対するケアと誤解している患者や家族がまだ多い」とし、県の広報誌を活用するなど県民の理解を深める必要性を訴えた。また、高齢者施設をはじめ、がん治療が専門ではない一般病院や在宅医療のスタッフも含めた研修の充実を求めた。

県内には、岩手医大付属病院をはじめ専門医療の提供や患者相談に対応する「がん診療連携拠点病院」

が10施設ある。岩手医大放射線腫瘍学部の有賀久智教授は「岩手県は県土が広く地域差も大きい。発症実態など各地の特質性を把握するために県独自の取り組みを考えてほしい」と話した。（角津栄二）

終末期の苦痛緩和のため

セミナー 木村岩手医大教授解説

がんなどの終末期の強い痛みを緩和するため「セデーション（鎮静）」について学ぶセミナーが19日、盛岡市若園町の市総合福祉センターで開かれた。岩手ホスピスの会（川守田裕司代表）の主催。岩手医大緩和医療学部の木村祐輔教授が、苦痛が緩和されない患者への対応の一つとして行われる「鎮静」について、倫理的な課題も含めて解説した。市民55人が参加した。

鎮静は、患者の耐え難い苦痛の緩和を目的に、患者の意識を低下させる薬剤を投与すること。鎮静が行われるが、患者の苦痛は除かれないが、「コミュニケーション」は維持できなくなる。鎮静を行って患者本人の意思を確認できなかつたり、家族の意向が分かれたりする

難い苦痛の緩和を目的では患者の状態を慎重に見極めた上で対応している。

通常は「耐え難い苦痛」「治療抵抗性の苦痛」「全身状態・生命予後の評価」「患者・家族への説明と同意確認」をした上で、鎮静の希望があった場合に「鎮静から始め、状態によって深い持続的

な鎮静に移行する。日本緩和医療学会のガイドラインでは、鎮静を実施することが適当と判断する苦痛の度合いや余命の評価に細かな定義も定めている。

木村教授は「鎮静は苦痛の緩和において大切な医療技術」とした上で「医療者が知識を得て、経験を積むことが必要。一人ひとりが自らの死、終末期の在り方をじっくりと考え、どうあるべきか、何を希望するかについて、大切な人と話し合

う機会を持つことがとても重要」と指摘。家族の中で話し合っておくことが、大きな判断をする際の礎になると話した。

川守田代表は「終末期の強い痛みを緩和するためにセデーションを希望する人も少なくない。多くの人に実情を知ってもらい、議論を深めていくべき」と語る。



終末期の苦痛緩和について学ぶセミナー（盛岡市）で木村祐輔教授が講演している様子。